

ろくおん 通信

2023年4月1日発行

発行 日本ライトハウス情報文化センター

録音製作係

発行責任者 竹下 亘

電話 06-6441-1017

FAX 06-6441-1027

http://www.iccb.jp/

No.256

今号の内容

- ◎録音前の準備についてのごお願い 1ページ
- ◎わかる 使える 広がる! デイジー図書徹底解説(第38回) 5ページ
- 最終校正(デイジー校正)のポイント: 校正表にあげるかどうか
- 迷うケースQ&A その3

録音前の準備について

録音製作係 木田陽子

音訳者の皆さんは、新しく製作することになった原本を受け取った時、まず何の作業から始めますか。簡単そうだなと思ったらすぐに読み始める派、1回の収録で読めそうな分量の下読みをこまめに行って読む派、全体の下調べを行ってから読み始める派、人によっても原本の内容によっても、いろいろなパターンがあるかと思います。

今回は、録音の作業に入る前にお願いしたいこと、「下調べ」と「録音前の環境設定」の2点についてお話しします。

■下調べ

録音を開始される前に確実にやっておいていただきたいのは、「ルビ(ふりがな)の確認」と「索引に掲載されているページの確認」です。

まずルビは、ある語句が初めて出てくるところではなく、本文の途中で突然振られることがあります。最初に原本全体をざっと見て、ルビのある場所をチェックしておくと、「今まで〇〇と読んできたけれど、100ページくらい進んだところで全然違うルビが付いているのを見つけてしまった…どうしよう…」という事態を防げます。

そして「索引に掲載されているページの確認」ですが、実際にその語句が掲載されているページとは数字がずれていたり、その語句が使われていないページが載っていたりすることがまれにあります。索引付きの本を音訳する際は、まず音訳者がページの照合を行っ

てください。(ただしデイジー編集の関係で、デイジー図書のページが原本ページからずれることがたまにあります。編集者から読み替えの依頼があった場合には、お手数ですがページ数の変更作業をお願いいたします。)

時々「今回、校正からの指摘事項が多くて悩んでいます…。」というご相談を受けて、校正票(校正表)を見せていただくことがあります。誤読の指摘に対して『広辞苑』や『大辞林』といった基本的な国語辞典が出典として挙げられていると、「きっと、この言葉の読みはこうだ、と思い込まれていたんだろうなあ…。」と感ずることがあります。紙媒体の辞書での調査が大変で…という方には、インターネットで公開されている辞書の利用がおすすめです。たとえば以下の3つのホームページからは小学館の国語辞典「デジタル大辞泉」を無料で使うことができますし、ホームページによっては複数の専門分野の辞書を含めて検索することが可能になっています。

- Webllio (ウェブリオ、<https://www.webllio.jp/>)
- コトバンク (<https://kotobank.jp/>)
- goo 辞書 (<https://dictionary.goo.ne.jp/>)

また、「国立国会図書館サーチ (<https://iss.ndl.go.jp/>)」を使って検索すると、小学館『日本国語大辞典』の、読み方を含む最初の数行を閲覧することができます(ただし元のデータは有料のオンライン辞書・事典検索サイト「JapanKnowledge (ジャパンナレッジ、<https://japanknowledge.com/>)」のもので、すべての情報を見たい場合はジャパンナレッジに会員登録することになります)。

インターネット上の情報には信憑性に欠ける情報も多いですし、きちんとした校正を経て出版されている紙の辞書が大切なのはこれからも変わりませんが、インターネットの辞書の中でも上記のような信頼できるものを活用すれば、下調べにかかる時間も短縮できるのではないのでしょうか。実際にいろいろと触ってみて、自分の使いやすいホームページを探してみてください。

音訳の活動を開始して間もない方は、少なくとも名詞だけはぜひアクセント辞典を引いて、アクセントを調べておいてください。動詞は活用によってアクセントも変化するため、複雑になると調べづらくなりますが、名詞は基本的には形が変わりませんので、そこだけでもきちんと共通語のアクセントで読めていると、後から修正する箇所が格段に減ります。

- 複合名詞のアクセントは、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』付録の「複合名詞のアクセント規則」を参照してみてください。
- 「～本」、「～階」などのアクセントは、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』の「数詞+助数詞の発音とアクセント一覧」が便利です。
- 三省堂『新明解日本語アクセント辞典』の付録「アクセント習得法則」には、細か

い解説が載っています。本文よりも文字が小さめで項目数も多く、敬遠される方も多いようですが、知りたいことがかなりの確率で載っているかと思います。

- ・『三省堂国語辞典』の新しい版には、新語のアクセントが掲載されています（一番新しいのは2022年1月に改訂された第八版）。上記のアクセント辞典2冊に載っていない言葉は、こちらや『大辞林』を引けば見つかる可能性があります。
- ・残念ながら無料で使えるインターネット上のアクセント辞典は無いようです（個人や各種機関が製作している、語彙が限定的なものは存在します）。アクセントの調査に関しては、まだまだ紙の辞書か電子辞書が主流ではないでしょうか。なおスマホアプリ版（有料）が販売されている辞書もあります。

そしてもう1つ、「ウェブスタジオ・なにわ」の「下調べ票」に付いている機能「原本語句検索」を使用してみてください。「下調べ票」に登録した単語は、ほかの人も調べられるようになっていきます。調べた語句と読み方、出典を登録するので、このホームページで検索して、あの辞書で調べて…としなくても、ここで見つけることができれば、時間が更に節約できます（検索方法は「ろくおん通信」No. 240参照）。

なお、音訳者の手元の辞書にはあるけれども校正者の使用している方には載っていない読みが、誤読とかわかれてしまう場合もあります。校正項目に挙がっていても、どこかの辞書に載っており、かつ文意上間違っていなければ、修正する必要はありません。また、あらかじめウェブスタジオの「下調べ票」あるいは手書きの「調査表」に調べた語句を書きためておくことで、「この辞書・このホームページが根拠になっている」ということを校正者に伝えられますので、校正に挙がる箇所もある程度減らすことが期待できます。

下調べというのは大変な作業ではあります。読みのわからない漢字やアクセントなど地道に辞書を引く必要のあるものだけでなく、図・表・写真のように音訳者が文章を書くものもあります。すぐにでも読み始めたいのに、この作業はいつになったら終わるんだろう…とうんざりされることも多いでしょう。受け取った本、すぐにでも録音し始めたいですよ。でもその前に、下準備をしておくことで後々の修正箇所を減らせるのであれば、良いことなのではないでしょうか。

■録音前の環境設定

もう1点は、当館で録音に使用しているパソコンソフト「Recdia（レクディア）」に関するお願いです。以前、No. 244で録音開始時の設定「3点セット（マイク音量設定→騒音測定→テスト録音）」について解説しました。よくあるトラブルとして、「騒音測定が適正值にならない…」とか「いざ録音し始めると雑音が入ってしまう…」というものがあります。こういった場合の原因の一つとして、1番目の設定「マイク音量設定」がうまくいっていない（あるいは手順を飛ばした）可能性が考えられます。スタジオ録音の場合は毎日別のペアが使用しますし、家庭録音でも、その日のコンディション（体調・マイクと

の距離)によって音量が変わってくる場合がありますので、「マイク音量設定」を行い、オーディオキャプチャーの音量を調整するなどして、音訳者ごとに「Recdia」の設定を合わせる事が重要です。実際に、目標値となる白い枠線の中に届かない音量のまま録音を開始し、雑音まで増幅されてしまったので「マイク音量設定」をやり直したところ雑音を消すことができた事例がありました。皆さんも録音前にはNo. 244を確認しながら「3点セット」の設定をしていただきますようお願いいたします。

... ..

★ マニュアル改定の続報：目次の読み順の変更について

現在、当館での製作マニュアルである「デジ図書 録音の順序」「デジ図書 編集のルール」の改定作業を進めております。配布時期が決まりましたら改めてご連絡するつもりです。

先日、マニュアル改定作業を行っているメンバーで話し合った結果、現在は読む場所を“デジ図書凡例の次”に固定していた目次を、“原本通りの場所”で読むよう変更することにいたしました。

これまで“デジ図書凡例（録音図書凡例）の次”に読むことにしていた理由は、カセットテープ図書時代に利便性を確保するためでした。カセットテープの図書は途中の項目に飛ぶことが難しかった（途中の音声を聞きながら、早送りと巻き戻しを根気よく行うしかなかった）ため、「まず目次を聞いて、利用者が聞きたい箇所（テープの何巻目、など）をある程度絞り込めるように」と工夫された読み方でした。デジ図書の時代となってからも「目次を聞いて、どんな内容の本かを確認したり、聞きたい場所を見つけたりできるように」という考え方を継続し、目次の位置を変更せずにきました。ですが、「デジ図書専用再生機などを使うことにより、項目（セクション）ごとの移動やページ移動などが格段にやりやすくなっていることを考えれば、原本に忠実な順番で音訳する方法に移行しても良いのではないか」という意見が出るようになったため、今回のマニュアル

改定に合わせて順番を変更することになりました。

実際に変更するのは、完成したマニュアルを皆さんにお配りし、説明を行ってからになりますため、数か月先になるかと存じます。スケジュールについては改めてお知らせいたしますので、現時点では「今後どこかのタイミングで読み順を変更することになるのだな」と考えておいていただければと思います。



わかる 使える 広がる！

デイジー図書徹底解説(第38回)

図書の特徴に合ったデイジー校正のポイントを紹介するこのコーナーでは、今回も、判断に迷うケースについてQ&A形式でまとめます。「利用に不便はないだろうか」「目で見えてわかる内容が聞いて同じように伝わるだろうか」がポイントです。音訳者、編集者もぜひご一読ください。

Q1 飛び飛びのページに書かれている図・表・写真などを、まとめて同じページで読む場合

当館の『デイジー図書録音の順序』12ページには、「図・表・写真の読み方の順序」の中に、「複数まとめて読む場合」が記載されていますが、この読み方だと原本のページが特定できません。それでも良いのでしょうか。

A1 原本の8ページに図が1枚、9ページに1枚、10ページに2枚あって、デイジー図書では10ページにまとめて読む場合の読み方は、以下のようになります。

「10ページ、原本8ページから10ページ 図4枚。

図1、(図のタイトルがあれば)。(著者のキャプションがあれば)。説明、〜〜。

図2、……。図3、……。図4、……。図 おわり。」

※ 上記の「図1」などの番号は、原本の図(・表・写真)の番号を優先します。

確かに「どのページに何枚の図が載っている」ということはわからなくなりましたが、「8ページから10ページまでの範囲に図が4枚ある」ということさえ伝われば、例えば利用者が誰かに原本の図を見てもらおうとした場合、目的の場所にたどり着くことは十分にできます。

また、「8ページと10ページに図が載っていて、9ページには無い」という場合も同じように「10ページ、原本8ページから10ページ 図〇枚。」と読みます。

どうしても原本ページを特定しなければ本文の内容が理解できないような場合が出てきましたら、相談していただければと思います。

Q2 処理の不統一とは？

当館の「デイジー図書 録音の順序」3ページ「処理の不統一は禁物です」のここ

ろに、「最後まで統一した読み方が求められます。」とありますが、校正で「不統一」に気づいた場合、どの程度校正表(校正票)に挙げるか迷います。基準はありますか。

A2 「処理の不統一」をどの程度校正表に挙げるか、難しいですね。音訳者も注意しながらも、どうしてもルビを見落とししたり、違ったアクセントで読んでしまったりします。そんなとき、校正やデジ編集で気づいてもらえるととても助かるものです。

※ 校正者、編集者が「不統一」に気づくケース

- ① デジ図書凡例のコメント通りに処理されていない。
- ② 引用文も、引用文でない「 」の文章も「カギカッコ・トジ」と読まれていて、区別がつかない。
- ③ 登場人物の読み方が統一されていないので、別の人物に聞こえる。
(例:「幸子」の読み方が、「さちこ」・「ゆきこ」など混在している など)
- ④ ある箇所ではルビがついている言葉が、ルビのない箇所ではそのルビ通りに読まれていない。
- ⑤ 図・表・写真の読み方が、決められた通りでない。
- ⑥ 同じ言葉が異なったアクセントで読まれている。
- ⑦ 単位などの読み方が場合により違う(例: cmを「センチ」と読んでいる箇所と、「センチメートル」と読んでいる箇所がある など)

※ 校正に際しての基本的な考え方

- ・ ①～⑤については校正表に挙げる。
- ・ ⑥、⑦については、挙げる必要のない場合もある。
- ★ ⑥、⑦の場合、第2校正・編集・デジ校正のどの工程なのかによって違ってきます。また、本文の内容や、該当の言葉が近くにあるか、離れたページにあるかでも異なります。それぞれのケースに合った判断が望まれます。
- ★ タイトルや見出しは、目次と本文でアクセントと読み方を必ず揃えましょう。

※ まとめ

- ★ 校正者、編集者は、気づいたことは校正票に挙げましょう(その際、「修正録音すれば、より良い図書になるかどうか」を考えましょう)。
- ★ 音訳者は、「修正録音の少ないことが、聞きやすい録音図書製作のポイント」を念頭に、録音状態や、校正票にある項目の内容をよく検討してから、修正録音をしましょう。

Q3 見出し入力について

当館の「デイジー図書編集のルール」5ページには「すべて全角で」入力するとありますが、アルファベットを半角入力するのもだめでしょうか。

A3 全角のアルファベットは、1文字ごとに空間ができ、文字列が長くなってしまうのでとても読みづらいというご意見がありますし、またアルファベットは「データ変換する際にエラーになる記号」には当てはまらないので半角でもいいのでは、というお声もあるのを受け、アルファベットの入力に限り「半角」もOKということにすることにしました。

ただし半角記号 (& ! # \$ % = ¥ - < > ' ") は必ず全角で入力してください。半角モードでアルファベットを入力した後、記号入力の際に切り替えを忘れ「半角記号」のまま入力されてしまうという危険性がありますので、その点はくれぐれもご注意ください。実際に昨年、半角の「<」・「>」を見出しに入力したデイジー図書で再生エラーが発生したため、見出しのデータを修正してサピエに上げ直したことがありました。



館からのお知らせ

★ 1月製作開始分より新しい枠アナウンスでの録音をお願いします

前号 (No. 255) に掲載しました通り、今年1月に製作打ち合わせを行った図書から、新たな枠アナで録音することになっています (昨年12月までに製作を開始した図書は旧枠アナ)。少し先の話になりますが、デイジー校正の修正録音時には終わりの枠を「デイジー図書奥付」として読むことになっていますので、前号の内容をご確認いただきますようお願いいたします。

なお、名前は似ていますが「原本奥付」と「デイジー図書奥付 (以前の“終わりの枠”)」は別物です。「原本奥付」を読んだ後で、「デイジー図書奥付」を録音してください。

★ 4月上旬、6階に新しいロッカーの設置を行います

現在6階で使用しているロッカー（カバンなどを置く棚）が古くなったため、新しいものに入れ替えることになりました。ロッカーの設置と耐震補強の工事を4月上旬に行う予定です。工事の際は大きな音が出ますので、当日6階で録音スタジオ・編集用パソコンを使用しているかたは、工事開始時間までに活動を終えるようにしていただきますようお願いいたします。日程が決まり次第、メーリングリストなどでご連絡する予定です。

★ 4月28日（金）午後、ボランティア交流会を開催いたします

4月28日（金）13：00～16：15に、玉水記念館にてボランティア交流会を開催することが決定しております。今年は感謝状贈呈の記念式典、記念講演に加えバザーが復活します。参加のお申し込みは4月15日（土）までに総務係（TEL：06-6441-0015）までご連絡ください。詳しい情報は「One Book One Life 3月号」に掲載しております。

★ 休室のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
4/ 9 休室	10 休室	11	12	13 ※PM 休室	14	15
16 休室	17 休室	18	19	20	21	22
23 休室	24 休室	25	26	27	28 ★休室	29 休室
30 休室	5/ 1 休室	2	3 休室	4 休室	5 休室	6
5 休室	6 休室	7	8	9	10	11

※ 4月13日（木）午後に職員研修を行うため、6階・7階での午後のボランティア活動は休止します。13時までには館内での作業を終えてください。

★ 4月28日（金）午後にボランティア交流会を開催するため、終日、6階・7階でのボランティア活動を休止します。なお英語チーム例会は実施します（6階での作業も含め12時には終了してください）。